

特集

# 一人ひとりが防災の担い手 災害に備える

平成23年3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、平成28年4月には平成28年熊本地震、同年8月には東北・北海道の各地で甚大な被害をもたらした台風10号による水害など、全国的に大きな災害が発生しています。

しかし、さまざまな災害が私たちの記憶に強く刻まれる一方で、災害に対する日頃の準備の大切さは記憶から薄れてしまう方も多いのではないのでしょうか。

日常生活を送る中で防災への関心を常に持ち続けることはなかなか難しいことかもしれませんが、いざというときに命を守るための準備は自分自身にしかできません。

一人でも多くの命を救うためにも、私たちはどのようなことに取り組んでいくことが大切なのか、今一度、考えてみませんか。

## 一人ひとりが 防災の担い手

市は、災害が起きたときに迅速に対応できるよう、食糧や資機材の備蓄、避難誘導看板の設置などを行い、防災体制の整備を図っていますが、防災体制を強化しても災害の発生そのものを防ぐことはできませんし、道路寸断などの要因により、災害発生後、すぐに駆け付けることが難しい場合があります。

そのようなとき、一人ひとりがこれまで行ってきた日頃の準備や地域での助け合いが大きな力となり、災害による被害を未然に防いだり、被害を最小限に抑えることにつながります。

## 身近なことから はじめよう

災害の備えとして、家庭内備蓄や家族との連絡方法・情報入手方法の確認、季節に応じた非常用持出品の準備をすることなどが必要です。

特に冬は、降雪による路面状況の悪化や視界不良などにより避難に時間を要する可能性や寒

さ対策のため防寒具を用意する必要があります。

また、突然の災害ではどのような行動が適切か判断できなくなる場合があるため、地域の防災訓練に参加するなど、災害時を想定した自分や家族の行動を確認し、備えることが、自分自身や大切な人の命を守る取り組みの一つになります。

## 大切にしたい地域 との『つながり』

皆さんは、日頃から近所の方とあいさつなどを交わしていますか。地域にどんな人が住んでいるのか分からない、という方もいらっしゃるかもしれません。地域の方との『つながり』は災害などのいざというときに大きな力となります。

過去には、日頃から地域の方とコミュニケーションを取っていたことで、災害時に近所の人

が声を掛けに来てくれたという事例もあります。

市内では、これまで各地で発生した災害の教訓を生かし、地域との『つながり』で防災活動を行う取り組みが進められています。